



ユネスコエコパーク通信

コラム

ニホンアナグマ

地面を掘って巣穴にしたり、ミミズや昆虫などのエサを掘り出して食べたりする穴掘り名人。「同じ穴のムジナ」という言葉があるように、見た目はタヌキに似ていますが、タヌキはイヌの仲間、アナグマはイタチの仲間とまったく違う動物です。姿かたちが似ていて、同じ穴を互いに利用することがあるため、混同されることが多いようです。

日本のほか世界各地にも同じ仲間がいます。死んだフリをする習性やユニークな顔立ちから海外では親しまれていることが多く、絵本や物語に主人公として登場することもあります。



地域おこし協力隊徒然日誌

寒いですね。でも、私が幼かったころは今よりもっと寒かったような気がします。朝起きて、朝日が当たらない日陰などでは、普通に氷柱が見られていたのですが：温暖化の波はもうそこまで来ているのでしょうか。どうりで、暖かさのあまり私の思考回路が安定しない訳です。

さて突然ですが、町民の皆さんが毎月、目を通されるこの広報あや。今年度は、実私が撮影した画像が表紙を飾っています。

世界に誇る照葉樹林が綾ユネスコエコパークの原資となっている訳ですから、基本的に綾ユネスコエコパーク内に息づく動植物が被写体となるように考えています。読者の皆さんからも、「地元こんな植物があることを知らなかった」「自然が豊かなふるさとなんだと実感した」などの意見が寄せられ、うれしい限りです。

季節に合った被写体を探すのは、なかなか苦労します。毎月、皆さんの手元に広報誌が届くのは対象月の前月末。広報誌の制作・印刷工程を考えると、動植物の旬(う)な時期より1カ月早く撮影をしなければならぬのです。表紙の撮影を申請け合いしな

ければよかったですと思っても、後の祭り。毎月、締め切りと催促の連絡が届いています。

表紙の写真を何にするかは毎回悩みます。植物は先々月使用したし、キノコ類はこの時期に発生していないし：など悩みが尽きません。ネタが尽きた時は、エコパーク推進室の河野円樹主事へ助けを求めます。

しかし！そんな生ぬるいことを考えているようでは、「綾の篠山紀信」は目指せません。脳内の温暖化防止のためにも、カメラを片時も放さずに野山を駆け回ります！綾町内でカメラを持っている私を見かけても、不審者として通報するのだけはご勘弁ください。

綾町地域おこし協力隊 杉本大

